

令和元年度

授業シラバス・年間指導計画

国語(1年)

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	国語総合（現代文）	2	普通科 理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		
教科書（発行所）		「国語総合 現代文編」（東京書籍）		
教科書以外の教材（発行所）		「新版四訂 カラー版新国語便覧」（第一学習社） 「重要頻出漢字リアルマスター 3300」（尚文出版）他		

目 標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
学習のねらい	1. 評論 ・文章の論理展開の構造を把握し、その構造を読み解くことから筆者の主張を理解し、新たなものの捉え方を知る。 ・自己と自己を取り巻く世界（社会）との関係について意識的に考え、評論で扱われている問題を自分の問題として捉え、筆者の洞察を踏まえながら自分の見解を持つ。 2. 小説 ・優れた描写、効果的な表現について学ぶことで言語感覚を磨き、想像力や感受性を豊かにする。 ・小説の構造や展開、主題に着目するなど小説を読む基本的な読解方法を学ぶことでその作品についての理解を深める。 ・小説が提示するテーマを自己の問題として捉え、自己理解を深める。 3. 詩 ・詩的表現に親しみ、それぞれの作品の中で言葉が独特な力を有していることを理解して、言葉の持つ可能性について考える。 4. 短歌と俳句 ・短歌や俳句を読み味わうことで日本語への理解を深め、想像力や感受性を豊かにする。 5. 表現 ・高校生として身に付けておきたい表現事項を学び、自分の考えや主張を的確に相手に伝えることができるようにする。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 （予定）	1回考查	「技術が道徳を代行する時」「水の東西」
		2回考查	「客観的と主観的」「羅生門」「〈顔〉という現象」
		3回考查	「言葉は『ものの名前』ではない」 「時間と自由の関係について」
		4回考查	「城の崎にて」「神様」「広告の形而上学」
		年度末考查	「小景異情」「汚れちまった悲しみに……」 短歌・俳句・「身体〈の〉疎外」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、現代文への「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查の出来に、授業での活動状況やノート、小テスト、課題提出状況などを加味して総合的に行う。		

アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○予習：教科書を読み、わからない語句や難しい表現を辞書などで確かめ、ノートに整理するとともに、疑問点を明らかにしておく。 ○授業：板書事項をノートに書き写す。さらに、他者の発言に注意して、予習の段階で理解できなかった疑問点を整理しながらノートにまとめていく。 ○復習：授業後即、教科書・ノートを確認し、疑問点が解明されたか確認する。 授業直前に前回の授業内容を振り返る。 定期考查前、問題演習をして学習内容の定着具合を確認する。 ○課題：配付されている問題集を自分の力で解答し、自己添削する。 その際に解説をよく読み、理解を深めることが大切である。 100字要約をして、記述力を磨く。
--	---

年 間 授 業 計 画 表					
期	月	単	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	1	「技術が道徳を代行する時」【クロスカリキュラム教材】	1 0	・文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図をとらえる。
		2	スピーチ：ブックトーク		・スピーチの仕方を習得する。
	5	3	「水の東西」 ＜1回考查＞		・評論の基本的な読解方法を習得する。
		4	「客観的と主観的」	1 8	・新たなもののとらえ方を知る。
	6	5	「羅生門」		・小説の基本的な読解方法を習得する。 ・各自でテーマを設定して課題を解決する。 ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
	7	6	「〈顔〉という現象」		・評論に述べられてる内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。
	8		＜2回考查＞		
	9	7	「言葉は『ものの名前』ではない」	1 1 9	・評論に述べられてる内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。
		8	「時間と自由の関係について」 ＜3回考查＞		・評論に述べられてる内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。
後 期	10	9	「城の崎にて」	2 0	・私小説の読解方法を習得する。
		10	「神様」		・小説の持つ寓意性について考える。
	11	11	「広告の形而上学」		・全体の構成を把握し、論の展開に即し的確に内容を読み取る。
			＜4回考查＞		
	1	12	「小景異情」「汚れちまった悲しみに……」	1 9	・散文詩に親しむとともに、様々な表現の工夫に目を向ける。
	2	13	短歌・俳句		
	3	14	「身体〈の〉疎外」 【クロスカリキュラム教材】 ＜年度末考查＞		・幅広く文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする
			総時間数	7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	国語総合（古文）	2	普通科 理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	国語総合 古典編（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	古典常識も学べる 新明説総合古典文法（尚文出版） 新版四訂カラー版新国語便覧（第一学習社） 全訳読解古語辞典 第五版（三省堂） 他

目 標	国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
学習のねらい	1 古文入門：『今昔物語集』『宇治拾遺物語』 ・古典を学ぶ意義について考える。 ・繰り返し音読することで、古文特有のリズムや歴史的仮名遣いに慣れる。 ・説話の特性を理解し、作品の構成・展開・内容を読み取る。 ・文法事項については、動詞の活用の習得を中心とする。 2 随筆：『徒然草』 ・随筆の特性を理解し、人間や社会に対する筆者の思想・心情を読み取る。 ・構成や展開に即して文章の内容を的確にとらえる。 ・優れた叙述や表現上の特色を学ぶ。 ・用言の活用、基本的な助動詞・助詞の意味用法を習得する。 3 歌物語と物語：『伊勢物語』『竹取物語』 ・物語の特性と普遍性を理解する。 ・叙述に即して登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・和歌の修辞、歌物語における和歌と地の文の役割を理解する。 ・作品の成立背景やその時代に生きた人々の生活・思想・心情を学ぶ。 4 随筆と日記：『土佐日記』『枕草子』 ・日記文学の特性を理解する。 ・女性仮託や臙化表現といった『土佐日記』の特性の意味するものを考える。 ・叙述に即して作品の内容を的確にとらえる。 ・敬語用法を理解する。 ・既習の文法事項への理解を深め、読解に結びつける。 5 和歌と俳諧：『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』『奥の細道』 ・和歌を体系的に学習し、それぞれの和歌集の歌風を理解する。 ・俳諧紀行文の特性を理解し、その時代の人々の生活・思想・心情を学ぶ。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	1回考査	『今昔物語集』『宇治拾遺物語』 動詞の活用
		2回考査	『宇治拾遺物語』『徒然草』 形容詞・形容動詞の活用、助動詞の活用
		3回考査	『徒然草』『伊勢物語』 助動詞の活用
		4回考査	『枕草子』『土佐日記』 敬語
		年度末考査	『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』『奥の細道』
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、古典への「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中の考察、小テスト、課題提出などを活用して総合的に行う。全体の評価は、現代文・古文・漢文を総合したものである。		
アドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	○しっかり音読すること。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねを続けること。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳を考えてくこと。 ○調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。 ○文法事項のほとんどをこの1年で学習するので、定着するまで繰り返し復習をする。		

年間授業計画表					
期	月	単	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	1	古文入門 『今昔物語集』 ・歴史的仮名遣い 説話 『宇治拾遺物語』 ・古語 ・品詞の種類 ・活用と活用形 ・動詞の活用 ほか 《1回考査》	2 6	・歴史的仮名遣いの特徴とその読み方を理解し、本文を正しく音読する。 ・古語と現代語の違いを認識する。 ・単語、文節、品詞の概念を理解する。 ・活用の概念を理解し、動詞の9種類の活用を知り、識別できるようにする。 ・仮定条件と確定条件の違いを理解する。 ・既習の知識をもとに、部分的な口語訳ができるようにする。 ・説話というジャンル、『宇治拾遺物語』について学ぶ。
	5				
	6		『宇治拾遺物語』 ・形容詞の活用 ・形容動詞の活用	4	・歴史的仮名遣いの特徴とその読み方を理解し、本文を正しく音読する。 ・古語辞典の使い方を理解し、指示された語の意味を調べる。 ・古文特有語、古今異義語に留意する。 ・品詞の種類を識別できるようにする。 ・用言の活用を理解する。
	7	2	随筆 『徒然草』 ・助動詞の活用 《2回考査》	10	・係り結びを理解する。 ・基本的な助動詞・助詞の意味用法を理解し、口語訳に生かすことができるようにする。 ・優れた叙述や表現上の特色を理解する。 ・随筆というジャンル、『徒然草』について学ぶ。
	8				
	9	3	『徒然草』 物語 『伊勢物語』	2 8	・兼好が、人間心理のかすかな動きを的確にとらえ、観察している点を理解する。 ・敬語法を理解し、助動詞・助詞について理解を深め、口語訳に生かす。 ・『徒然草』の多様性を理解し、考察する。 ・歌物語というジャンル、『伊勢物語』について学ぶ。
	10		『伊勢物語』 『竹取物語』 ・敬語の基礎 《3回考査》	4 9	・叙述に即して登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・和歌の修辞、歌物語における和歌と地の文の役割を理解する。 ・物語の特性と普遍性を理解する。 ・作品の成立背景やその時代に生きた人々の生活・思想・心情を学ぶ。
	11	4	日記 『土佐日記』 随筆 『枕草子』 ・敬語 《4回考査》	10 8	・女性仮託や臙化表現といった『土佐日記』の特性の意味するものを考える。 ・旅立ちに当たっての、ことの次第を理解する。 ・助動詞「なり」を識別できるようにする。 ・日記文学の特性を理解する。 ・帰京したときの自邸の様子と紀貫之の心情を理解する。 ・敬語の用法を理解する。
	12				
後 期	1	5	和歌と俳諧 『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』 『奥の細道』 《年度末考査》	7 8	・和歌を体系的に学習し、それぞれの和歌集の歌風を理解する。 ・修辞に留意しながら和歌を解釈する。 ・各作品の読解・鑑賞を通して、和歌の魅力と普遍性を知る。 ・俳諧紀行文の特徴を知る。 ・芭蕉の旅についての思いを理解する。 ・俳諧の特徴を知り、味わう。
	2				
	3				
総 時 間 数				78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	国語総合（漢文）	2	普通科・理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	「国語総合 古典編 漢文編」（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	「改訂版 体系漢文」（数研出版） 「カラー版新国語便覧 新版四訂」（第一学習社）

目 標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
学習のねらい	1 訓読の基本 ・古典を学ぶ意義、漢文を学ぶ意義について考える。 ・繰り返し音読することで、漢文のリズムを味わい、訓読に慣れ親しむ。 ・漢文の構造を理解する。 ・訓読のきまり、書き下し文のきまりを理解する。 2 故事成語 ・故事成語のもとになった話の内容をとらえたうえで、故事成語の意味について理解する。 3 唐詩 ・近体詩のきまりを理解する。 ・漢詩のさまざまな詩形に触れ、内容を理解し鑑賞する力を身につける。 ・漢詩に詠まれた情景を読み取り、作者の心情を的確にとらえる。 4 寓話 ・論理的に構成された文章を読み味わい、中国の歴史・文化に親しむ。 ・筆者の思いを理解し、訓読の方法に習熟するとともに漢文読解の力を養う。 5 史話 ・日本人にもよく知られた作品を原文で実際に読むことを通して、さらに古典を読む楽しみを具体的に体験する。 ・まとまった分量の漢文を読むことによって、訓読の方法に習熟するとともに、基本的な漢文読解の力を養う。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読みとる。 6 思想 ・儒家思想の概略を知り、現代に通じるものの見方・考え方について考え、諸家の思想を学ぶ上での足がかりとする。		
	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
定期考査	範囲 （予定）	1回考査	訓読の基本
		2回考査	「助長」「推敲」「断腸」唐詩
		3回考査	「朝三暮四」「苛政猛於虎也」「塞翁馬」
		4回考査	「十八史略」
		年度末考査	「論語」「孟子」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、古典への「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中の考察・小テスト・課題提出などを活用して総合的に行う。全体の評価は、現代文・古文・漢文を総合したものである。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○しっかり音読すること。言葉の学習では、音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳をつけてくること。調べてもわからない点について、授業で重点的に学習し、授業で学んだことはできる限りその日に復習して覚える。 ○句法・語法のほとんどをこの一年で学習するので、繰り返し復習をする。		

年間授業計画表					
期	月	曜	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前	4	1	訓読の基本	8	・なじみのある故事成語・格言を通して、漢文訓読に親しむ。 ・返り点のきまりを理解し、漢文を正しく音読する。 ・訓読のきまり、書き下し文のきまりを理解する。 ・漢和辞典の引き方に慣れ、学習に役立てることができるようになる。 ・漢文の語法・句法や構造を理解する。
	5		《1回考査》		
期		2	故事成語 「助長」 「推敲」 「断腸」	12	・繰り返し音読することで、漢文のリズムを味わい、訓読に慣れ親しむ。 ・適切な速度で、正しく訓読できるようにする。 ・平易な短い文章を読み、内容を理解する。 ・漢文の語法、句法を理解する。 ・現代における故事成語の使い方を理解する。
	6	3	唐詩 「春曉」「江雪」 「望廬山瀑布」 「秋夜寄丘員外」 「送元二使安西」 「黃鶴樓送孟浩然之廣陵」 「静夜思」「涼州詞」 「春望」 「香炉峰下、新卜山居草堂初成、偶題東壁」	12	・近体詩のきまりを理解する。 ・繰り返し音読し、漢詩のリズムを感得する。 ・唐詩の描写を味わい、そこに表れた心情を理解する。
	7		《2回考査》		
	8 9	4	寓話 「朝三暮四」	6	・適切な速度で、正しく訓読できるようにする。 ・比較的長い文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。 ・文章の内容を、話の展開に即して理解する。 ・漢文の語法、句法を理解する。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読みとる。
後	10		寓話（続き） 「苛政猛於虎也」 「塞翁馬」 《3回考査》	12	・適切な速度で、正しく訓読できるようにする。 ・比較的長い文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。 ・文章の内容を、話の展開に即して理解する。 ・漢文の語法、句法を理解する。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読みとる。
	11 12	5	史話 「十八史略」 《4回考査》	16	・適切な速度で、正しく訓読できるようにする。 ・比較的長い文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。 ・文章の内容を、話の展開に即して理解する。 ・漢文の語法、句法を理解する。 ・話の展開を把握し、筆者の思いを読み取る。
期	1 2 3	6	思想 「論語」 「孟子」 《年度末考査》	12	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・漢文特有の語法や句法に留意しながら、内容を把握する。 ・諸子百家が現れた時代背景を確認する。 ・儒家思想の概略を知り、現代に通じるものの見方・考え方について考え、諸家の思想を学ぶ上での足がかりとする。
			総 時 間 数	78	